

授業科目名	授業担当者(担当)氏名	区分	単位	年間授業時間	受講学年	開講年次
作品分析Ⅱ	新垣 隆	必修	2	30時間	2	毎年

《授業の概要》

作品分析作業の内に、ここでは「日本の作曲史の構築へ向けて」というテーマを含める。

《到達目標》

このテーマが「西洋音楽の専門家」という、私達自身の問題であることを自覚する。(できるようになる)

《授業計画》

第1回 [4/15(金) 16:00~17:40]

授業: はじめに

事前: なし

事後: 授業の内容を受けて、又、後の《授業計画》の内容を踏まえて、各々の「見通し」を立てること。(60分)

第2回 [4/16(土) 16:00~17:40]

授業: ブラームス「ピアノ協奏曲第1番」

事前: 特に第一楽章のソナタの形を確認しておく。(60分)

事後: 19世紀後半の「ソナタ形式」の様々な例を確認する。(120分)

第3回 [5/27(金) 16:00~17:40]

授業: 1980年前後、日本の「歌謡曲」と「YMO」を聴く。

事前: ここではあらゆる楽曲を「ソナタ形式」と「それ以外」という分類にする。この後者の例を見ておく。(60分)

事後: 日本におけるポップスとクラシックの出自の違い、あるいは交差点について調べる。(120分)

第4回 [5/28(土) 16:00~17:40]

授業: チャイコフスキー、ドボルザークの交響曲(いわゆる「メジャーなもの」)

事前: 「ヨーロッパの中央と周縁」という地政学的な見地を確認しておく。(60分)

事後: この時代のオーケストレーションが、いわば「基礎」なので、習熟するとよい。(120分)

第5回 [6/24(金) 16:00~17:40]

授業: 野田暉行「ピアノ協奏曲」

事前: 「現代音楽」あるいは「日本の現代音楽」について、ある程度調べておく。(60分)

事後: 授業で挙げた、日本のピアノ協奏曲の系譜について、試聴する。(120分)

第6回 [6/25(土) 16:00~17:40]

授業: 團伊玖磨「交響曲第2番」

事前: 「日本の交響曲」とはどんなものか、各自自由にイメージしておく。(60分)

事後: 授業で挙げた「2つの交響曲の系譜」について試聴する。(120分)

第7回 [7/11(月) 16:00~17:40]

授業: 授業: 小山清茂「管弦楽のための木挽歌」

事前: この作品のようないわゆる「日本的」なものはどのようにして生まれているのか、各自イメージしておく。(60分)

事後: 日本の戦前の作曲の状況を調べる。(120分)

第8回 [7/12(火) 16:00~17:40]

授業: 武満徹「遮られない休息」

事前: 武満徹についてある程度調べておく。(60分)

	事後： 「在野」とは何かを考える。(60分)
第9回	[9/29(木) 16:00~17:40]
	授業： 石井真木「ヴァイオリンとピアノのための4つのバガテル」
	事前： ウェーベルンの「4つの小品」と「6つのバガテル」を調べておく。(60分)
	事後： さかのぼってベートーヴェンの小品やバガテルを見る。(120分)
第10回	[9/30(金) 16:00~17:40]
	授業： 大栗裕「ヴァイオリン協奏曲」
	事前： バルトークの「ヴァイオリン協奏曲第2番」を聴いておく。(60分)
	事後： 授業で挙げた「4つの分類」をもとに、日本の作品をカテゴライズする。(120分)
第11回	[10/28(土) 16:00~17:40]
	授業： 宮川彬良「シンフォニック！マンボNo. 5『運命』」
	事前： ウィンナワルツ、ハンガリー舞曲等のオーケストラを聴いておく。(60分)
	事後： 「様式」「変奏」「編曲」「なじみ易さ」について認識を深める。(60分)
第12回	[10/29(金) 16:00~17:40]
	授業： 坂本龍一「ぼく自身のために」
	事前： 坂本龍一についてある程度調べておく。(60分)
	事後： 宮川、坂本の仕事を比較する。(120分)
第13回	[11/25(金) 16:00~17:40]
	授業： 新垣隆「交響曲『連禱』」
	事前： 「ソナタ形式」について今一度確認しておく。(30分)
	事後： 今後、この様なものは可能か、各々検討する。(120分)
第14回	[11/26(土) 16:00~17:40]
	授業： 服部克久、前田憲男、羽田健太郎、渡辺俊幸など
	事前： 欧米の(主に20世紀の)映画音楽、ポール・モーリア、パーシー・フェイス等を聴いておく。(60分)
	事後： 授業で挙げた可能性について、各々検討する。(30分)
第15回	[12/15(木) 16:00~17:40]
	授業： プロコフィエフ「戦争と平和」
	事前： 出来れば原作を読んでおく。(120分)
	事後： 「21世紀」がどのような時代になるかについて、各自考える。(120分)

《履修資格／履修に必要な予備知識や技能》

2年次生

《授業の形式》

講義

《成績評価の要点》

試験： 1% 提出課題・作品発表等 1% 受講姿勢： 100%

成績評価は、上記の項目に基づき「優」「良」「可」「不可」で評価する。

《課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法》

授業内でコメント

《授業時間以外で、この授業内容等について質問がある場合》

その日のすべての授業の終了後に受け付ける。